部会だより

電力部会の経過概要

1. 発足の経緯

1966年秋の広島でのOR学会に電力各社から集まってきた人たちのなかで，「電気事業でのORの振興，相互の情報交換といった目的で学会開催時に集まりをもったらどうか」という話が出たのが最初のきっかけとなった．

1967年秋の九州でのOR学会のおりに，具体的計画を検討するために電力各社に呼びかけて話合いの場をもち，各社のORの現状を紹介し合い，会の名称を EPOR(Electric Power Operations Research) と定め，1968年春に EPOR 第1回の会合をもつことにした．

1968年春の東京でのOR学会のおりに，第1回EPORの会合が開かれ，各社の状況，訪米報告，今後の運営について話合いがなされた．

その後，EPORの組織について種々議論がなされ，EPORを正式にORの問題を討論する場として認め，電気事業におけるORの振興に実際に役だつものとするためには，OR学会の研究専門委員会に所属する1部会として再発足させることが望ましいという結論に達し，1968年10月のOR学会研究専門委員会ならびに理事会に電力部会の設置を申請し承認された．当時，OR学会会員中に占める電力各社社員の割合は約5％に達し，電力各社はいずれも賛助会員となっていた．

2. 組織構成

電力部会は，委員会，定例研究会，随時研究会，作業部会から成り，委員会，定例研究会はOR学会の前後にOR学会開催地で行なうこととし，随時，研究会，作業部会は必要のつどこれを行なうこととした．

委員会には，電力各社から1名ずつ，電研からは事務局を兼ねているので2名の委員をだし，主査を東北電力・後藤常務（1968～1969年度OR学会副会長）とし，副主査には東京電力および関西電力の委員がなり，部会の運営方針，研究テーマの審議・決定，その他部会の進め方に関する重要事項の審議等を行なった．

定例研究会は，委員会で決定された研究テーマにもとづいて研究発表・討論を行なうこととし，随時研究会は定例研究会を補完するものとして，定例研究会の準備的な研究，残った問題点の検討等を目的として随時開催した．

作業部会は中部電力・中国電力・九州電力・電力中研（後に東京電力も加わった）がこれをつとめ，具体案の策定，報告書の編集など部会運営上必要な諸作業を担当した．

3. 研究の経過

定例研究会は6回開催された．

第1回の研究テーマとしては，電気事業においてもかなりの実績を挙げている実用的手法である「PERT」を取り上げ，電気事業における PERT 利用の現状と問題点の検討，各社の事例研究を中心に研究を進め，「電気事業における PERT」としてとりまとめた．

第2回の研究テーマは，手法でなく「需要予測」という問題を対象とするテーマを選んだ．第3回，第4回の研究テーマは，それぞれ「シミュレーション」，「数理計画法」であった．第5回はOR関係アプリケーション・プログラムの適切なる活用を促進するため，「ORとアプリケーション・プログラム」というテーマを掲げた．これらは，いずれもPERTの場合と同じく，それぞれのテーマに関する電気事業の現状と問題点の検討，各社の事例研究を中心に研究を進め，それぞれに報告書をとりまとめた．

これら定例研究会を重ねていく過程では，討論時間の拡張，特別講演を設けるなど，できるだけマンネリにならないよう，研究的雰囲気を強化する方向で進めていった．また，アンケート調査を行なうことにより，このような研究会の持ち方について研究会出席者の意向を反映させるように努める．

第6回定例研究会は，最後の締め括りとして，「電気事業におけるORに関する諸問題」をテーマに電気事業経営における現代的ニーズ，ORの発展の方向，OR活用上の問題点，経営的側面からみたOR

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

手法の特性，ORの組織と要員訓練等について研究・討論を行なった．

5回までの定例研究会では，それぞれのテーマに関してパネル討論が行なわれたが，その討論のなかでは，手法，データ，モデル，応用，能力，組織・体制上の問題点が広い範囲にわたって議論された．これらは，今後の電気事業におけるORを推進するうえで有益な示唆を与えるものであり，また，今後に研究さるべき課題を提供するものであると考えられる．

このようにして，電力部会は当初の目的を果たし，一通りの完結をみたので解散することとし，その解散にあたり，これまでの研究・討論を土台として，電気事業におけるORの活用を促進すべく，「電気事業におけるOR振興に関する提言」を提示しようと，現在そのとりまとめに力を注いでいる．（若林　剛）

支部だより

東北支部

1. **会員状況**：個人会員64名，賛助会員3社（電電公社，亀井商店，東北電力）となっています．このうち大手としては，東北電力24名，電電公社13名，東北大学8名といったところです．

支部長は，支部設立当初から3年間継続された後藤壮介氏（東北電力）から本年5月の総会をもって浅田秀雄氏（東北電力）に交替した．副支部長，評議員として，東北大，山形大，東北地建，東北電通局，キリンビール，河北新報および東北電力から合計15名と幹事6名とで運営にあたっており，事務局は，これも支部設立当初から3年間継続した東北電通局から本年5月東北電力・総合機械化開発室内（幹事：本間四郎）に交替しました．

2. **活動状況**：昨年度の講演会としては，「官能検査」—東北大・御園生教授(1970.9,第2号掲載済)があったほか，東北電通局，東北電力など主催によるOR関係講演会の傍聴方を支部会員に案内し，多数の参加を得た．また，支部活動の活発化を促進するため，本部の「金曜サロン」にならい，ORに関する肩のこらないディスカッションや意見交換を行なう会合—「ORサロン」を昨年4月より毎月1回，第3月曜の夜に定例的に開催しました．参加人員は毎回十数名程度といったところ．7月にはキリンビール仙台工場の見学もかね現地で行なうなど11月まで8回連続し，大いにオシャベリの機会を得，効果があったと思っております．

その後「ORサロン」のなかから生まれた意見などをとり入れ，ORの普及はまず管理者クラスからという考え方から，それらの人々をおもな対象として講義風にORを勉強すると同時に，ORサロン的な要素ももりこもうという「OR勉強会」と名づけた会合に衣更えした．この勉強会は近藤次郎著の『オペレーションズ・リサーチ入門』をテキストにして，副支部長の東北大・御園生教授などによる講義を中心に毎月1回定例的に開いています．1月からすでに6回開いたが，今後はさらに特定のテーマを中心とした研究会など斬新な趣向をもりこみ，いっそうの成果をあげたいものと考えております．

支部活動を他支部と比べてみますと，もう少しという感じがしますので，会員1人1人が，もっと積極的に組織強化に指向できるような体制づくりをしたいと考えています．

3. **支部総会**：本年5月29日（土）の午後に開催したが，会員の半数近くの26名の出席があり．きわめて盛会でした．総会は型どおりの議題審議の後，東北大・渡辺浩教授による「mesh data system の操作性について」と題する講演が行なわれた．この内容は今後の data system の考え方に多くの示唆を与えるものであり，たいへん有意義なものでした．

その後懇親会があり，日ごろの忙しさでついとだえがちな会員相互のくつろいだ交誼の機会を得たといえます．

学会誌の体裁変更のお知らせ

去る6月の総会で，会員のご意見をお伺いしましたが，学会誌の体裁を第16巻第1号（1972年1月発行）から変更するよう，細部の検討が進められています．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．